学園だより
太白山

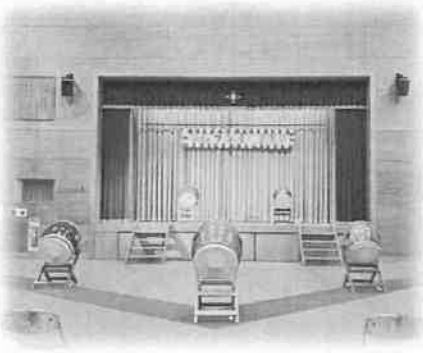
（令和7年第3・4合併号）

宮城県さわらび学園
〒982-0215
仙台市太白区旗立二丁目４番１号
TEL：022-245-0333
FAX：022-245-0515
https://www.pref.miyagi.jp/sishiki/sawarabi/
学園ホームページもご覧ください

『みんなで紡いだ1年』　園長　田中　佳二

令和7年度を振り返るとさまざまなことがありました。春から夏にかけて、野球活動を通して、キャプテンとメンバーとの絆、メンバー同士の思いやり、子ども達と職員の連帯感など「チームの和」が広がり、結果、東北・北海道地区大会での優勝、飛行機での大移動となった沖縄での全国大会出場を果たし、それぞれの子ども達から湧き出す達成感を強く感じることができました。夏から秋にかけて、花山、松島での野外活動、福島・山形の施設との三県交流会、秋から冬にかけては学園祭、クリスマス子ども会、餅つきなどなど、たくさんの行事を通して、子ども達のさまざまな魅力を見つけることができました。そして何よりも、日常の中でのさりげないやりとりや、日々の中で起こる問題を機につないでいく課題への向き合い、子どもと職員の間で起こる認識のズレ・不信感から信頼感への変化など、たくさんの日々を一緒に過ごすことで生まれるつながりが、子ども達それぞれが内に秘めていた「正しさ」や「伝えたい言葉」に気づくきっかけになっていると感じています。

子どもにとっても、職員にとっても、「ここが自分の居場所、自分のやりがい」になれたなら、この人生の一瞬が大切な糧になり、これからにつながっていくと思います。今年1年、ご支援、ご協力をいただきました皆様には心より感謝申し上げます。







本館職員から①

副園長から

令和7年度も残りわずかとなりました。4月からは進学や進級など、みなさんそれぞれ新しいステージに飛び込んでいくことになります。どうか勇気を出して一歩一歩あゆみを進めてほしいと思います。勇気が必要な時に、私が日頃、唱えている言葉を紹介したいと思います。元楽天イーグルスの野村監督も著書で紹介しています。

心が変われば態度が変わる
態度が変われば行動が変わる
行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる
人格が変われば運命が変わる
運命が変われば人生が変わる

私はこの言葉を折に触れ読み返すことで気持ちを整え、勇気と元気を得ています。みなさんにも参考になればうれしいです。

これから訪れる新しいステージが、もしかしたらみなさんにとって人生が変わる大切な節目になるかもしれません。（副園長：岡本　稔）

「伝える」ことについて　指導班長　實石　哲夫

班長として2年目を迎え、職員、児童、関係機関、見学者など、多くの方々に思いや情報をお伝えする機会が増えてきました。その中で常に意識しているのは、「何を、どこまで、どのように伝えるのか」という点です。こちらが伝えたいことと、相手が知りたいこと、そして受け止められる内容とのバランスを確かめながら、本当に届けたい思いが伝わるよう工夫を重ねています。

学園では昨年度からアドボケイト制度導入の準備を進め、今年度より本格的に活用が始まりました。児童の中には、一時保護所や以前の入所していた施設で既に利用経験がある児童もおり、学園でも制度を通して、これまで職員には直接伝えられなかった思いを表明する姿が見られています。

児童自立支援施設における支援は、児童と職員との関係性が基盤となります。児童が思いを表出し、職員がそれを受け止め、適切な支援を通して、児童と職員との関係が深まっていく、双方向の関係性こそが支援の根幹です。アドボケイトの活用は、児童の思いをより丁寧に受け止めるための一つの手段であり、私たち職員にとっても学びや気付きの機会となっています。

学園の機関紙「太白山」は、入所児童の頑張りや日々の生活の様子を、保護者や関係機関の皆さまにお伝えするため、年4回の発行を目標に制作しています（今年度は2回の発行となります）。この「太白山」もまた、児童と職員が共に歩む日々の姿を「伝える」大切な取り組みです。読んでくださる皆さまに、児童の成長や、それを支える職員との関係性が少しでも伝われば幸いです。

本館職員から②

「児童の成長と回復を支えるために」　学園心理士　佐藤　啓直

心理士の役割の1つは児童との面接で、課題に特化したものや対人・家族関係の話題など内容は様々です。しかし、最初の面接で必ず確認することが2つあります。1つは児童が取り組むべき課題、もう1つは「心のけが」(トラウマ)につながる経験や心身への影響です。生活場面では、特定の状況や言葉に反応して興奮する児童、逃げ出す児童、固まる児童などに出会います。過去の体験が影響していることもあり、早期からそれを理解した支援が必要となります。

課題と向き合い、受けた傷の回復も図る支援は学園ならではのものであり、日々奮闘する児童と職員の下支えをする役割を今後も果たしていきたいと考えています。

個別対応職員から

個別対応職員は、担当寮を持たない横断的なかかわりができるという利点があります。その一環で新たな取り組みである子どもたちの奉仕活動を紹介します。

昨年以来、近隣の幼稚園との関係づくりをしています。夏には、園庭の自転車コースのペンキ塗りをしました。また冬には、女子寮中心に「おひな様のパーツづくり」をし、園児がおひな様をつくるための準備をしました。更に折り紙が得意な小学生男児は、園児が楽しい気持ちで毎日過ごせるよう願いを込めてキャラクターのタペストリーをプレゼントしました。子どもたちが、誰かの役に立つことや喜ばれることによって、心が温かくなる体験につながればいいなと感じています。（個別対応職員：小野寺亜希）







本館職員から③

「家庭支援専門相談員になって」　家族支援専門相談員　有我　定哲

私は2年前にさわらび学園へ異動し、2年間広瀬寮職員として勤務していましたが、今年度から家庭支援専門相談員として、寮を離れることになりました。今までは、児童たちをケアワーカー視点で見ていましたが、現在はケースワーカーの視点で見るようになり、児童一人ひとりの家庭環境の課題を意識するようになりました。特に、保護者と児童の成育歴を重視していますが、家庭環境が大きく変わった時期や問題行動が多発した時以外に、養育が問題なく出来ていた時期にも注目し、家族再統合や児童自立の糸口を探しています。

退園後の児童がより良い生活を送れるように、関係機関との連携を意識した支援をしていきたいと考えています。



学園祭



令和7年10月31日に令和7年度学園祭を開催いたしました。当日は児童の意見発表会、和太鼓演奏を始め、日頃の成果を大いに発揮できた場となりました。関係各位の皆様、ご出席いただき、ありがとうございました。

学園祭を終えて

今年度の学園祭では、主担当として準備から当日まで子ども達と共に歩んできました。全体練習では、最初は戸惑いながらも、回を重ねるごとに声が大きくなり、仲間と声を掛け合いながら真剣に取り組む子ども達の姿が見られました。その積み重ねがあったからこそ、本番では子ども達一人ひとりが自信をもって舞台に立つことができたのだと思います。特に意見発表の時間では、自分の目標やこれから挑戦したい事を堂々と語る子ども達の姿に、大きな成長を感じ、支援者として胸が熱くなりました。学園祭は子ども達の努力だけではなく、日頃から支えてくださる保護者の皆様や関係機関、地域の方々の協力があってこそ実現できる行事です。今年も無事に開催できたことに、心より感謝申し上げます。

（学園祭担当職員　竹川　東吾）

学園祭の感想　中学3年　S.A

私が、学園祭を通して思ったことは、二つあります。

一つ目が、和太鼓演奏です。和太鼓の演奏では、日頃の練習から、他の児童と協力して音を合わせることができ、本番では、練習以上の最高の演奏ができたと思います。二つ目が、意見発表会です。意見発表会では、自分達の学園に来てからの成長や、日々の学園生活を通して、周りの大人に伝えることができたと思います。

最後に、今回の学園祭を通して、自分が思ったのは、周りの大人への「感謝」です。今回の学園祭、自分達児童だけでは、成功しなかったと思います。学園祭が、こうして無事に何事もなく、成功に終われたのは、周りの大人の手助けがあったからだと思います。学園職員、分教職員、原籍の先生方、児相職員、保護者の方々、有難うございました。



クリスマス会



クリスマス会を終えて

令和7年12月16日、恒例のクリスマス会を開催しました。出し物では各寮や有志の児童が練習の成果を披露し、歌やダンスで会場は一体となって盛り上がりました。お楽しみの昼食は、お寿司や食堂特製のチキン、ケーキを堪能。食後には園長サンタと副園長トナカイがサプライズ登場し、一人ひとりにプレゼントが手渡されました。

「楽しい一日だった！」と喜ぶ子どもたちの笑顔が溢れ、心温まる冬のひとときとなりました。（クリスマス会担当職員　木浪　琢磨）

クリスマス会　小学6年　T.S

ぼくがクリスマス子ども会で楽しかったことは3つあります。

1つ目は、青葉寮の劇です。ドラえもんがしれっと「やみバイト」や「ぎんこうごうとう」をしたり、真顔でマシンガンを撃ったりしているところが、とてもおもしろかったです。どんなにすごい道具があっても、結局は使う人しだいで「良い生活」ができるかどうかが決まるのだな、と深く考えさせられました。

2つ目は、子ども会の人たちの出し物です。園長先生のお話をさえぎって歌を歌ったり、ダンスを踊りだしたりする意外な展開がおもしろかったです。

3つ目は、クリスマスプレゼントです。ずっと欲しかったものがもらえて、最高にうれしかったです。

最後に、この楽しかったイベントを力にして、毎日の生活を自分しだいで良いものにしていけるよう頑張りたいです。





新春スポーツ大会



新春スポーツ大会

当園では、毎年1月に新春スポーツ大会を開催しています。今年度は「大縄跳び」「綱引き」「ソフトバレーボール」の3競技でした。男子、女子、分教室教員、学園職員が、ミックスでチーム分けして競い合う貴重な機会です。今年度も例年通り盛り上がりましたが、素晴らしかったのは子どもたちのプレーや声がけによって、雰囲気が自然と良くなっていたことです。仲間にも対戦相手も、野球で培った応援スキルで「ファイト」「ドンマイ」と声が飛び交います。ソフトバレーで際どいプレーがあっても、「ボールに触りました」とスポーツマンシップを発揮します。さらに大人も年齢関係なく全力で動き回ります。特別な工夫をしなくても、素敵な行事になるエネルギーを感じました。（新春スポーツ大会担当職員　夏谷　朔）

新春スポーツ大会　小学5年　S.M

1月23日に、新春スポーツ大会がありました。新春スポーツ大会の種目は、ソフトバレーボール、つな引き、大縄とびでした。ソフトバレーボールは、あんまり、上手にできなかったけどチームの皆がフォローしてくれたので勝つことができました。一方、つな引きはゆかがすべりやすく、相手チーム全員が力が強いということもあり、勝つことが出来ませんでした。一方、大縄とびは練習の場では上手にとぶことができず、苦戦していましたが本番ではたくさんとぶことが出来ました。

最終的に、チームは優勝することができました。次に大縄とびでは、個人MVPをとることが出来ました。

新春スポーツ大会の種目のソフトバレーボール、つな引き、大縄とびどれもあまり得意ではなく最初はのり気ではなかったですが、チームの皆と協力してやっていく内に楽しいと思えるようになりました。

学園ギャラリー

